【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第３区分
【発行日】令和7年6月4日(2025.6.4)

【公開番号】特開2025-15012(P2025-15012A)
【公開日】令和7年1月30日(2025.1.30)
【年通号数】公開公報(特許)2025-018
【出願番号】特願2023-118060(P2023-118060)
【国際特許分類】
Ｂ２３Ｑ　5/04(2006.01)
Ｂ２３Ｃ　3/12(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ２３Ｑ　5/04　５２０Ｚ
Ｂ２３Ｃ　3/12　　Ｂ

【手続補正書】
【提出日】令和7年5月27日(2025.5.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
シリンダ軸方向に延びるシリンダ室を有するハウジングと、
圧縮性流体によって先端方向に付勢され、前記シリンダ室内を往復するピストンであって、先端部に配置される作用部を有するピストンと、
傾動軸を有し、前記シリンダ室内に配置され、前記シリンダ軸に対して傾動可能な傾動ボディであって、
基端部に配置され、前記作用部と当接するセンタリング部であって、前記傾動軸が前記シリンダ軸から傾斜するときに、前記シリンダ軸を作用線として、前記ピストンを押し出すセンタリング部を有する傾動ボディと、
を有する、工具ブラケット。
【請求項２】
前記センタリング部は、凸球面である、
請求項１に記載の工具ブラケット。
【請求項３】
前記作用部は、円形断面を有する凹部である、
請求項１又は２に記載の工具ブラケット。
【請求項４】
ｎを３以上の整数とすると、前記センタリング部は、前記傾動軸に対してｎ回対称に配置された接触凸部を有し、
前記作用部は、前記シリンダ軸上に中心を有する凹球面である、
請求項１に記載の工具ブラケット。
【請求項５】
前記ハウジングは、先端部に配置される座面を有し、
前記傾動ボディは、先端部に配置されるヘッド面であって、前記傾動軸が前記シリンダ軸に実質的に一致するときに前記座面に当接するヘッド面を有する、
請求項１又は２に記載の工具ブラケット。
【請求項６】

前記座面は、前記シリンダ軸に垂直な平面であり、
前記ヘッド面は、前記傾動軸に垂直な平面である、
請求項５に記載の工具ブラケット。
【請求項７】
前記傾動ボディには、回転する先端工具を装着可能なスピンドル体が取り付けられ、
前記傾動ボディと前記ハウジングの間に配置され、前記シリンダ軸を中心とする前記傾動ボディの回転を抑制する回り止めを更に有する、
請求項１又は２に記載の工具ブラケット。
【請求項８】
前記回り止めは、前記シリンダ室の先端側に配置される、
請求項７に記載の工具ブラケット。
【請求項９】
請求項１又は２に記載の工具ブラケットと、
回転する先端工具を装着可能なスピンドル体であって、前記傾動ボディに配置され、前記傾動ボディと一体となって傾動するスピンドル体と、
を有する、バリ取り工具。
【請求項１０】
圧縮性流体がピストンを介して傾動ボディを先端方向に押し出し、
先端工具がワークに接触してモーメント荷重を受けたときに、前記傾動ボディの先端部に配置されるヘッド面が、ハウジングの先端部に配置される座面と接触する１点を中心に、前記傾動ボディが傾き、
前記圧縮性流体の圧力に抗して、シリンダ軸を作用線として、前記傾動ボディが前記ピストンを押し出し、
前記傾動ボディと一体に、前記先端工具が、前記ワークの形状に沿って傾動しながら前記ワークのバリ取りを行う、
バリ取り方法。
【請求項１１】
前記先端工具が前記ワークに接触しないときに、前記傾動ボディの前記ヘッド面が前記ハウジングの前記座面に接触して、前記傾動ボディの傾動軸が前記シリンダ軸と実質的に同一になる、
請求項１０に記載のバリ取り方法。